



生産性高い働き方を

越谷JCでイクボス講演

埼玉版「ウーマノミクス」女性活躍推進

多様な人材活躍推進と企業発展による地域活性化を図ろうと、越谷青年会議所は4日、安藤哲也氏の講演の後、53人がイクボス宣言した越谷JC青経塾セミナー4日、越谷市中央市民会館

越谷市内で越谷JC青経塾セミナー「越谷イクボス〜今更ニターに求められるもの〜」を開催。NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事の安藤哲也氏が、中小企業にできる働き方改革について語った。埼玉版「ウーマノミクス」プロジェクトの一環で、県が共催。

安藤氏は生産年齢人口の減少や家庭の在り方、短時間労働者の増加、介護リスクなど、労働条件に制約を持つ社員が増えている社会変化を指摘。「長時間労働と業務の属人化が部下の健康と家庭を破壊している」と、短時間で高い価値を生む生産性の高い働き方の必要性を強調した。

「(経営者や管理職は)部下の多様なライフスタイルを尊重し、時間に対するコスト感覚を持つべき」と、部下だけでなく自らのワークライフバランスを大切にしたい働き方改革を掲げた上で、「上司の覚悟が職場を変える」と訴えた。

安藤氏の講演後、セミナー参加者から53人が「イクボス宣言」した。「イクボス」とは、部下の仕事と家庭の両立を応援しながら組織の成果を出す経営者や管理職。(高橋功)

永田総合企画のラインカー(左から初期、試作、新作)を生み出した永田浩取締役。白い粉は袋とほどよく混ぜる。レバーを調節すれば1台で(左から)サッカー(12号)、野球(7・6号)、陸上(5号)に加え、2号の細いラインも思いのまま

政治倫理と定常型社会

COLUMN 県内大学発 経世済民

川口短期大学

「アベノミクス」の正体 この5月、「アベノミクス」の正体―を日本経済評論社から出版した。安倍氏の再登場以来、デフレ脱却の為の経済政策が効果を発揮したか、副作用は何か、を明らかにした。

れる政策の枯渇、国債金利が低位で止まぬ放漫財政、国債・株式市場の機能不全、銀行の経営悪化等が深刻である。 オリンピック向け財政出動で景気はもつたろうが、終了後、景気後退と天文学的な財政赤字によるインフレ到来は必至だ。政治分野での深刻なのは、全国民

相沢 幸悦
ビジネス実務学科 客員教授



を監視下に置く「共謀罪法案」を無理やり国会で成立させたこと。 ■季下に冠を止す? 安倍氏は、日銀の異次元金融緩和でデフレ不況を終わらせ、国政選挙で4連勝した。首相に逆らう自民党議員は消え、マスコミも黙った。 教育勅語を暗唱させる人物の小学校開校に国有地を不当に安く払い下げさせた、腹心の友の学校法人に獣医学部を認可すべ

(あいざわ こうえつ) 1950年生まれ。慶応義塾大学大学院博士後期課程修了。現、埼玉学園大学経済経営学部特任教授、川口短期大学ビジネス実務学科客員教授、経済学博士。近著「アベノミクス」の正体(日本経済評論社、17年)。

く行政をねじ曲げたと疑われ、お気に入りの女性議員を防衛大臣に据え、統率力を批判されてもかばい続けた。たるみは自民党2回生議員に顕著で、失言が多発し、揚げ句の果てに秘書への暴力や罵言(はり)雑言とやら放題。 国有地の値引き払い下げ、52年ぶりの獣医学部の認可に安倍氏は関わってないだろう。だが、特に「君主」たるもの誤解を与える行動は厳禁だ。安倍氏は国会で何度も釈明した。「季下に冠を正した」が李は採ってない」とばかりに。取り巻きの「君主」様が李を食っていたらどうか度々減る。

古典経済学者J・Sミルは、倫理が要求される企業の利益が上から成長が止まると、「誰も人を押しつける」求めるのはむなし

北地域では近 人口減への対 っており、経済 環として、 企業の人材確 まった人の定 けたい」とし 主権は深谷

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-7995-9161 FAX 048-653-9040
keizai@saitama-np.co.jp